**大阪支部　田中長老導師講話会　　　2019.10.27**

1. 九月の神聖復活祭の時に昌美先生がおっしゃり、白光誌九月号でも説明されましたが「神聖復活目覚めの印」から「神聖復活の印」になりましたね。これはものすごく大事なことなんですね。

いよいよ“目覚め”という中間のものが取れて、“復活”そのものにストレートに行くようになったんです。それは、私たちが印を組み続けてきてエネルギーがプールされてきたことと同時に、もう**世の中が待ったなしの状態になった**ということです。

目覚めを待っているのではなく、即“復活”をさせなければならない。そうしないと世界はそのまま破滅とか破壊に一直線になってしまう。そういうところで神様の世界でこの“目覚め“というものを取って、即”神聖復活の印”に変えたわけです。

1. その九月の神聖復活祭の時に昌美先生が壇上で神聖復活の印の一つ一つの動作の説明をなさった時、印の最後の如来印で終わったときに初めて**「この印は“すべては完璧　欠けたるものなし　大成就”という形で納めるのである」**とおっしゃった。

　従って、私たちは、「神聖復活の印」というのは“すべては完璧　欠けたるものなし　大成就”で納める**果因説の最高の行であり、ましてやお清めとかそういうものの印ではない、**ということを心に留めておく必要があります。

　以前の私の講話では、「神聖復活と目覚めはすべて完璧に大成就した」という形でお話をしましたが、もう待ったなし。“目覚め”というものが取れた。そして「神聖復活の印」になった。

昌美先生が、**“世界人類を救う最後の鍵が神聖復活の印である”**とおっしゃっているのはこの印にすべてがかかっているわけです。そして神聖復活をしたその先にあるのが、最高の果因説である**「我即神也」「人類即神也」「世界人類皆即神也」**…すべてが神そのものであるということです。

３、白光誌（2019.10月号）の「神聖の羅針盤」で昌美先生が仰っている大事なポイントは

* 1. 各国に一人でもよいから、神聖復活の印を組める人が存在して欲しい。（P.4）
  2. 自分自身がこの神聖復活の印を組み続けることによって自らの神聖に目覚めてゆく。（P.5）
  3. 我々がこの印を組み、人に伝えていくことで、核戦争をも防ぎ、無くしていく。（P,６～７）
  4. 地球環境、状況も神聖復活の印によって大難を百分の一くらいに収めている。（P.7）

４、五井先生に感謝するということは、五井先生が私たちに一番やってもらいたいことを行うことです。五井先生への感謝で、一番大事なことは、大仰に言えば私たち一人一人が五井先生にならなければいけない。そして一人一人が五井先生になって、天変地変を防ぎ、核戦争を防いでゆく・・・それだけの器になっていくこと。それが五井先生への感謝であります。

５、人類救済のイメージ

■私たちは五井先生、昌美先生が率いる大きな船に乗っていると考えていただきたい。ノアの箱舟という旧約聖書の伝説がありますね、私たち五井先生に縁のある者は、大きな五井先生というご指導の船に乗っているわけです。最初は“守護霊・守護神”というマストがあった。そして“消えてゆく姿”というマストがあったのですね。そのうち今度は、昌美先生の代になりますと、“地球世界感謝行”というマストが立った、それから“光明思想徹底行”というマストが、そして”我即神也””人類即神也”というマストが立った。そのマストが立って、大きく帆が広げられると大きな風を受けて、船が前進できるようになるわけです。そしてそれから「神聖復活目覚めの印」・・・神聖復活という目覚めのマストが立ったわけです。その時に私たちの乗っている船は「神聖復活号」という大きな名前の船になった訳です。そして大きな神聖復活のマストに神々の光を受けて、私たちが船に乗ったその時に、これから私たちが横切る海が、今までにない、体験したことのないものすごく怖い、いつ転覆するか分からないような荒海‥…その荒海の中に出ていく訳です。

　　■私たちが神聖復活号という箱船に乗っていくのは何の為かというと、行く先々の荒海の中に、救われたいと手を差し伸べている、溺れ死ぬかも知れない沢山の人がいるわけです。そこへ私たちは“神聖復活号”の中から救命具を投げているわけです。その救命具の中で、一番有効な救命具というのが「神聖復活の印」なのですね。「さあ皆さん、これに摑まってください。これに摑まれば、この船は絶対に沈みませんから、一緒にこの荒海を乗り切っていきましょう」・・・そういうふうにして一回一回この印を組んで、ご縁のある方からこの船に引き上げられる訳です。

■各支部や集会というのは、大きなこの箱船から小舟を出して、更に荒海の中に出て、多くのご縁のある人たちを救ってゆく、そういう存在であります。

■この印を組む時、どこどこの方向とか、誰々にとか考えないで組む時は、全方位、全方向に網を張るやり方であります。それに対して、ある一点一方向に目掛けて救命具を投げかける方法があります。荒海の中で縁のある人無い人もいるので、救命具を掴まない人もいるし、掴んでも手を放す人もいます。それに対して、私たちは救命具を投げていく。一日に一回や二回ではなく、何回も組んでいきますと、だんだん近づいて来る。今日のやり方は、一点一方向を定めて印を組むやり方を行います。

　　■これだけは覚えておいて下さい。既に“目覚め”というものが取れた瞬間から**果因説の一番の原点は「我即神也」「人類即神也」であります**。この「神聖復活の印」の特徴は、人間だけでなく、動物、植物、鉱物・・・すべての存在が一挙に神性そのものになるということです。

　　「我即神也」の印は自分だけの印でしょ。「人類即神也」の印は人類だけの印ですよね。だけれど、これから地球が大調和して、一ランク次元が上昇していくためには動物も植物も鉱物も海も山も川も全部が一緒に次元上昇していかなければならない訳です。

　　そこで、**「世界人類皆即神也」**という言葉を入れておいて下さい。この世界人類の中には、世界中の人類もあるが、その他動物、植物、鉱物も、海も山も川も地球そのもの全部入っている訳です。

この印を、例えば自分の為に組むときは、息を吸うときは「我即神也」で組み、息を吐くときは「世界人類皆即神也」で組みます。（最高の言霊をこの印に活用していく）

６、「神聖復活の印」を組む

　　■今日はまず、（問題のある）七か国に対して一か国ずつこの印を組みます。

　　例えば、北朝鮮に救命具（神聖復活の印）を投げますと、北朝鮮で真理に目覚めている人は、必死でそれを掴んでこの“神聖復活号”に乗り込もうとする訳です。海に漂っているそこの国の人々を通して、その人の背後に縁のある沢山の海に漂っている世界人類も引き寄せられて“神聖復活号”に入ってくることが出来るわけです。

■　**神聖復活の印のエネルギー　＝　集中力　×　回数**

この印を組むときに意識しなければならないことは、印を組む人の頭上には、**“神聖復活の印の共磁場”**が出来るということです。そこに一回組むとそのエネルギーがプールされる。そして回数を組んで臨界点に達すると溢れるように出てきます。そうなると何をしてもうまくゆく。どんな所にいても大丈夫・・・というふうになってゆく。このようにエネルギーがものを言う訳です。この世の中はエネルギーの問題です。**どれだけその人にエネルギーが溜まっているかで決まってくる**わけです。そして集中力を使って組む。今この国のために組まなければと思って組むときには意識が集中します。

■ 国のために神聖復活の印を組むとき心の中で唱える言霊

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 印の動作 | 呼吸 | 心の中で唱える言霊 |
| １  ↓  ８ | 如来印のまま息を吸う  　　　　　↓　（4呼吸の動作）  両腕を真っ直ぐ前に伸ばす | 吸う時 | **○○人皆即神也**  　　（○○は国名） |
| 吐く時 | **世界人類皆即神也** |
| ９ | 前に伸ばした両腕を水平に左右に開く | 吸う | **すべては** |
| 10 | 左右に開いた両腕を元に戻す | 吐く | **完璧** |
| 11 | 前に伸ばした両腕を降して如来印 | 吸う | **欠けたるものなし** |
| 12 | 如来印のまま | 吐く | **大成就** |

■最初の呼吸は、これが一番大事で、○○国のために組むという時は、守護霊様、守護神様が私たちの霊的な体を○○国へグッと向けるわけです。アンテナが全部○○国へ向かっていくようになっているわけです。そして“世界人類皆即神也”で世界人類へ発信していく。

■**印は絶対他力行**です。私たちは印を組むだけで、印のエネルギーを使うのは守護霊様、守護神様、そして五井先生です。

■私たちは、荒海の中で、波や突風にさらわれないために一番大事なものは、肚（はら）と腰です。ここが据わっていれば飛ばされることも、流されることもありません。印を組むときはグッと丹田を腰の方に引き寄せて、ここに全てのエネルギーを集める。腰のところを守護霊様がグッと押えて下さいます。印を組む時は、守護霊様、守護神様と組んでいるという気持ちで組みます。

■救命具を投げる時は、あまり近くてもダメ、また、あまり遠くてもダメ。この深い呼吸は、大　　　　　　　体**一分**位が一番体も安定して、相手の一点一方向に救命具をしっかり投げ入れられるようです。

■この印を組むと、相手国の国津神様や人々から感謝の波動が来るわけですが、それが全部私たちの頭上に蓄積されるわけです。その手応えを感じると、一回一回の印が充実してきます。

７、個人のために神聖復活の印を組む

　　■この印は、個人のために組むことが出来ます。この印を○○様のために組みますと、○○様の守護霊様がその光を受けて、○○様の縁のある世界中の人々のところへもこのエネルギーを発信していく訳です。そういう霊的システムになっています。

**■**この印を組むときに心の中で唱える言霊は、各国への祈りで唱えた○○人皆即神也のところを○○様即神也に置き換えて唱えます。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 印の動作 | 呼吸 | 心の中で唱える言霊 |
| １  ↓  ８ | 如来印のまま息を吸う  　　　　　↓　（4呼吸の動作）  両腕を真っ直ぐ前に伸ばす | 吸う時 | **○○様即神也** |
| 吐く時 | **世界人類皆即神也** |
| ９ | 前に伸ばした両腕を水平に左右に開く | 吸う | **すべては** |
| 10 | 左右に開いた両腕を元に戻す | 吐く | **完璧** |
| 11 | 前に伸ばした両腕を降して如来印 | 吸う | **欠けたるものなし** |
| 12 | 如来印のまま | 吐く | **大成就** |

■○○様で印を組むのは亡くなった方やご先祖様のためにも組んで下さい。この印は天地を区別することなく、ストレートに光が行きます。

　　■この印はただ組んでいるだけでも、守護霊様が全部やってくださいますので、いいのですが、それではそのうちに飽きてしまいますので、サボるようになってきます。昌美先生が今年（2019年）から来年（2020年）にかけて一番危ないと仰っておられる。この一番危ない時に、私たちは肉体を持って、そして、この印を組むチャンスを与えられています。そのような時に巧妙な理由を付けてサボっていたら五井先生のお弟子として、白光の会員として今一番働かなくてはならない時に申し訳ないことであります。この印を何のために組んでいるのか、国々や、人々のために一点一方向に目的を定めて意識を集中して組んでいきますと、手応えが感じられるようになり、やりがいが出てきます。

　　■病気などで寝ているときは、イメージで組んでもいいのです。その時は私たちの守護霊様が代わりに組んでくださいますから、普通私たちが組むよりもっと強いかもしれません。

　　■過去のものを引きずっていると、動きが鈍くなり、船から引きずり落されるような感じになります。過去は全部消えてゆく姿にして、“神聖復活の印”という果因説をやっていきますと、過去を引きずらなくなります。過去を全部終わりにして、印を組み続けましょう。

　　■自分に自信がない時など、自分の為に神聖復活の印を組む時は、印の息を吸う時に**「我即神也」**、息を吐く時に**「世界人類皆即神也」**そして先ほどの国や個人の時に解説しましたように、**「すべては　完璧　欠けたるものなし　大成就」**で納めます。（自分を祝福する印）

以上